

震災緊急対策	20903	調査用具	津波被災地区	安全	衛生
--------	-------	------	--------	----	----

■津波被災地区での作業時安全対策

津波被災地区では通常の災害現場と異なるため、現地調査・査定時にはこれに応じた安全確保対策が工夫された。①安全長靴と手袋の着用、②予備タイヤの確保等の車両のパンク対策、③ビニール製ゴミ袋の活用、④医薬品・救急用具の携行、⑤ポリタンクによる水道水の携行、⑥ラジオの携行

1. 津波被災地区での作業時における安全長靴と手袋の着用

津波被災地区の土砂・瓦礫には釘等の鋭利な突起物が混じっている場合があり、通常の長靴では踏み抜きによる負傷の危険がある。このため、「踏み抜き防止鉄板入り長靴」を着用し、安全を確保する。

また、瓦礫は釘等の突起物があるほか表面がささくれているため、手元の安全対策として手袋の着用が必要である。手袋には土木用の安全・快適性を考慮したものが多数市販されているため、適当なものを選択・入手する。

2. 予備タイヤの確保等の車両のパンク対策

津波被災地区では車両がパンクするリスクも大きい。現場担当者はこれを避けるため注意をしながら走行しているが、見落としの可能性もある。通常、車両には予備タイヤが装備されているが、毎日の点検を通常より注意深く行う。また、釘等による事故対策としてパンク対策キットも携行するのが望ましい。

3. ビニール製ゴミ袋の活用

津波被災地区の瓦礫・堆積土は水分を含むだけでなく、油分や汚泥等が混在する。このため、現場ではこれらが衣類や持ち物に付着した場合、他の者と隔離する必要がある。ビニール袋は簡便にこれらを分類・区分して整理するのに役立つ。多様なサイズの商品が市販されているため、複数のサイズを携行する。雨天時にはポンチョとしても活用できる。

4. 医薬品・救急用具の携行

不慣れな被災現場では怪我の機会も増える。瓦礫では切り傷・裂傷・刺し傷等を負いやすいため、これらに配慮した医薬品・救急用具を携行し、適切な初期対応を施す。

5. ポリタンクによる水道水の携行

水道水は、手足の汚れを洗浄する他、怪我をしたときの傷口の洗浄水にも用いることができる。被災現場では水道水の確保も困難な場合があるが、適当な間隔で入れ替えを行い、清潔を保つ。

6. ラジオの携行

大規模災害では、中継基地被災や混雑現象等で携帯電話が使えない時期がある。こうした場合、現場における唯一の外部情報の入手手段はラジオであり、新潟県中越地震・中越沖地震でも担当者の情報入手の拠り所となった。発災時にはFM放送の地域局が身近な情報を発信して、住民の行動・判断を助けた

東日本大震災	作成：2015.04	文献：	執筆：有田・橋本
--------	------------	-----	----------